

盛大に行われた五十周年記念式典



栄短同窓会 だより

— 第2号 —

平成 5 年 9 月 30 日 発行
 北海道栄養短期大学同窓会
 札幌市中央区南3条西7丁目
 学校法人
 鶴岡学園本部事務局内
 TEL (011)271-4521
 FAX (011)271-3809



「旅立ち」

北海道栄養短期大学同窓会

会長 吉田 廸子

食物栄養学科三期

昨年の「創刊号」に続き、皆様に創刊第二号の新聞をお届け出来ることを嬉しく思います。春早くから冷害が心配され、裏づけするように寒い夏になりましたが、更に一月の釧路沖地震、七月の南西沖地震と二度の災害に見舞われた方、遠くは鹿児島地方の豪雨に見舞われた方も多くの同窓の皆様の中にはおありと思います。心よりお見舞いを申しあげます。

五十周年という記念の年を昨年迎え、今年には新たな第一歩目を踏み出したわけですが、三月には大きな希望を胸に母校を巣立たれた平成四年度卒業の五二〇名の若い皆様を新会員にお迎えして新しい枝を母校と同窓会に継ぎましたことは大きな喜びです。

母校の方も長年恩師としてもお慕いして参りました佐々木シロミ先生がその任を終えられて御退任され、今井陽学長が後事を信頼なさる古瀬卓男先生に託されて御勇退されました。

既に北海道新聞の報道などで御存知の

方も多いと思いますが、栄養士の養成機関として飛躍を続け乍ら発展してきた母校の成果である他学科を網羅出来なくなつて憂慮されてきた学校の名称ですが、正式に平成六年春より変更になることが決定致しましたことを御報告致します。

学校法人鶴岡学園 北海道文教短期大学という名称で新たな歴史を重ねてゆくことになりました。

長年慣れ親しんできた学校の名称が変わることに皆様も一抹の寂しさを抱かれることとは思いますが、その一生に四回も名を変えて大きく育つといわれる鯛のように、大きく、たくましく樹に成長しつつある母校を陰から支える同窓会として、私達も新たな感慨をもって共に成長していきたいと願っております。

最後になりましたが、母校の益々の発展と、同窓会員お一人お一人の御健康と御活躍を心よりお祈り申しあげて、ご挨拶にかえさせていただきます。

「就任に当って」



学校法人 鶴岡学園
北海道栄養短期大学

理事長代行 古瀬 卓男

去る四月一日付をもって学校法人鶴岡

学園理事長代行、北海道栄養短期大学学

長に就任致しました古瀬でございます。

長い歴史と光輝ある伝統をもつこの学園

で、最も重大な職責を与えられた私は、

就任に当り、全教職員に対し、「過去に敬

意を表し、現在に汗し、未来を見つめよ」と

呼びかけました。それだけに、学園の

そして短期大学の歴史の担い手である同

窓の皆様に、ご挨拶の機会をと願ってま

いりました。去る八月三十日の幹事会で

ミ先生の強いご要請があり、短大学長、

学園理事長代行に就任いたしました。学

園に職を奉じて日も浅く、不安な船出で

ありました。幸いなことに教職員の皆様

方の全面的な協力のもと、決められた

スケジュールが整々と消化され、いくつ

かの懸案事項が処理されて、短大が飛躍

に向けて大きく踏み出しましたと、お知

らせ申し上げることに大きな喜びを感

じております。

特に此の際、私が、同窓の皆様にお知

する必要があるのでのみならず、より重要な

ことは、昭和四十三年に幼児教育学科を

設置した時以来、文部省より校名変更の

行政指導を受けて来た事実に対応しなけ

ればならないということでありました。昭

和六十一年に英語学科設置の計画があつ

た時にも、文部省より校名変更を前提と

しない限り認めないという行政指導を受

けております。本学がより一層の発展を

志向する以上どうしても越えなければな

らないハードルが校名変更であります。

尚、学校法人の名称は従来通り「鶴岡

学園」であることを申添え、母校の飛躍

を願われる同窓の皆様にもご理解を頂き

たいと存じます。

私は、今後は、母校の状況について皆

様に積極的にお知らせしたいと存じ、

その方策を模索いたしております。

最後に、皆様方のますますのご健勝と

ご活躍を祈念申しあげ私の挨拶といたし

ます。



現況報告

旧師 谷口 富三郎

同窓生諸君、お元氣ですか、小生は相

変わらず頑健、ご放念願います。学科目が、

「一般数学」だったので、皆さんとの縁

は浅かったが、栄短・栄養学校を通じて

約五十年間もお世話になったので、学園

との縁は長く深い、改めて、学園の発展

を祝うと共に、皆さんの多幸を祈ってい

コーチ(名前だけかな)だったり、OB

会に入れて貰って、「栄短クラブ」のゼ

ッケンを背中に、全道大会にも出てみた

り、結構楽しんでます。その他、札幌

教育大の卓球部に顔を出したり、札幌卓

球連盟やら、町内会の大会やら、卓球だ

けで大忙しです。勉強の方は、STVの数学教室のお手

伝いをする程度で、伸び伸びと暮らして

居ります。よろしくご想像願います。

校名変更決定!!

去る六月に学園の懸案事項であった校名が文部省の内示により決定いたしました。新聞紙上等でご存じの会員の方々も多いとおもいますが、「北海道文教短期大学」と呼び名が変わります。ただし法人名は従来どおり学校法人鶴岡学園というなかで、新たかに出発します。前号でも記したとおり、時代と共に複教科制の総合短期大学にして行く必要性にせまられ、母校が発展していくための必須条件でありました。この事については現学長より幹事会、及び支部長会議の席上で経緯、経過が報告されました。今後は創設者であられた鶴岡御夫妻の大学にしたいといった意志を継いで、四年制にすべく応援を我々同窓生はすべきであろうと思うのは私一人であらうか……。

(齊藤記)

校名変更にも思う!!



根釧支部長 上田 満子

栄養学校十二期

八月七日、同窓会根釧支部の細やかな集いを持ちました。根室、標茶からも参加していただいた出席者は十数名でしたが、自己紹介に始まり、鶴岡学園のビデオ上映から会をすすめました。

話題は寮生活での思い出が多くコークスの燃やし方がわからなかったとか、ゴム合羽を着用しての給食実習、門限の厳しかったこと等ユーモアたっぷりの楽しい一時でした。いろいろ考慮されての結果であろうこ

とは推察されますが、五十年の歴史を省りみますとくに、ふと一沫の淋しさが過ぎます。

今後同窓会の在り方として考えましたときに栄短同窓会と名を打っておりますと、新校名で卒業される方々の接点はどうなりますか?この機会に鶴岡学園同窓会として学園創立以来の卒業年度をもって何回生として学科別の組織を結成してはとの意見にまともりましたことを申し入れ当支部の近況報告とします。



道南支部長 小野 幸子

食物栄養学科二期

同窓会の支部長をお引き受けして速いもので、もう一年が過ぎようとしております。昨年は同窓会員の確認の意味もあり葉書で支部会員の方々に発送して住所の確認もすることが出来ました。

今年はまだ校名変更などがありびつくりしている次第です。

北海道栄養短期大学と聞き慣れ、栄養士として誇りを持ち素晴らしい先輩にめぐまれて今日まで栄養士として仕事を誇りしてまいりましたが、突然、母校がなくなつたような感じが致します。淋しさと、

なんとも言えない複雑な心境です。

北星、藤、天使短大など、栄養科であろうと、英文科であろうと何が増えても北星の〇科で同窓生としても安心感があります。今、文教短期大学となると、文学系の学校かな?とか、鶴岡短大にしたいだけなかつた事をちよつと残念に思います。

「ブロックの細分化を」

東京支部長 駒澤 春美

栄養学校十四期

東京支部長拝命後、まず管轄下の同窓生の掌握から始めさせていただきましたが約三十名の未掌握(挨拶状の戻り)を除き約六十二名を掌握したところで。

同窓会の活動事業として同窓会の開催を計画したところが管轄下はありりにも広範囲のため(例えば開催地を東京と考える場合)果して北は青森、南は九州から集まっていただけかどうだろうという実現性の問題に直面し、せめて関東北信

越地方だけでも考えましたが諸々の事情から計画倒れになってしま大変心苦しく思っている次第です。

要はあまりにも広範囲というハンディキャップが障害となつていゝものと思われまますのでこの広範囲を本部と直結する各ブロックに細分化した新組織を作られ同窓会の開催が実現性のある方向に見出していただければと思っております。



「鶴岡学園」と 私とクラスメート

城 美穂子
栄養学校二十期

私は在校生当時は駅から北大前を通る今はなき路面電車で北校舎に通学、南校舎では調理、生け花の授業風景等や鶴岡先生御夫妻の白衣姿、独得の口調、頑固な雰囲気が目につく。二十期生のクラスメートの懐かしさ、金谷さんと家族ぐるみでお付き合い、黒坂邸では時折りミニクラス会が開かれ、話に花が咲きます。(森川、長井、鷺尾、山下、浦木さん等) 昨年は北島さんが来道されて何人か楽しい時間を過ごしたそうです。西垣、久保

田さんとは数年前に会いボランティアで活躍している様子聞き、とても刺激されました。阿部さんとは昨年まで同窓会幹事を一緒に居りました。堀江、篠原さんとは年賀状でのお付き合いが続いて居ります。中には難病を克服した方、最愛の御主人を亡くされた方、お孫さんのいる方そして現在も栄養士として活躍されている方と様々ですが、皆に共通しているのは器用ではないけれど、地道に生活している「鶴岡学園」の校風そのままでの感じがします。



「私の目標」

工藤 晶子
専攻科四期

私が勤務しているのは、日糧製パン株式会社、北海道本部 中央研究室という部署です。中央研究室では主に、細菌検査と新製品の試作等を行っており、私は細菌検査を担当しています。検査はパンの他に、和菓子、洋菓子、調理パン、弁当等の自社製品も行っています。入社して二年がたちましたが、昨年一年間は与えられた仕事をこなすのが精い

っぱいで周りを見る余裕などありませんでした。今年に入ってからは、少しずつ周りを見ながら仕事ができるようになりましたが、まだ覚えなければならぬところが多々あり学生時代のように専門書で勉強しています。辛いことは特にありませんが、体力がとても必要とされる仕事なので私の目標は、知識、体力のアップです。



「最東端の町から」

高橋 由佳
別科十八期

私にとって栄養短大入学というのは、人生の一大イベントと言っても過言ではありませんでした。初めての一人旅、一人暮らし、その他辛い事や楽しかった事本当にいろいろな経験をさせてもらいました。

ところで私は今、北海道最東端の町、根室に住んでいます、私の産まれ育った景色の良い(ただしジリの日も多いけど

……)所です。実家が戦後間もなく初めて「山びこ」と言う飲食店なので、そこで働いています。私は幼い時から母の働く背中を見て育ちました。母は私の目標です。少しでも近づけたらと毎日頑張っています。

皆様もお近くにお出掛けの際はぜひ一度お立ち寄り下さい、おまちしています。

利尻にて

久保田 寿広
食物栄養学科二十六期

私の職場は、道立鬼腸病院といい北海道の北の島、利尻島にあります。

病院の簡単な紹介をすると、内科・外科、三十二床の病院で入院患者は十〜十五名という所です。

離島ということで入院患者は高齢者が多いので、特別食は減塩食と糖尿食が多いです。又、重症の患者は離島という特殊事情のため、緊急時の対応が出来ず島の病院に輸送しています。輸血用の血

液や薬、医療機器等、島には揃っていないのでやむおえないと思っっています。

給食の仕事の面では栄養士一名、調理員四名体制です。給食の仕事は全て栄養士に一任されており、すきにやらせてもらっています。

悩み事としては、秋から冬にかけてのフェリーの欠航です。ほとんどの食料を島外より取り寄せているため、二日も欠航すると頭が痛い所です。

人

卒業を目前にひかえ、栄養士の資格を生かす道に進もうか、あるいは他の異なった道へ進もうかと、通路の選択にせまられた一時期がありました。

栄養士、教員採用試験ともに市に登録されていたこともあり……。

父親が現役の教師であったことと、母親も以前、教壇に立ったことがあり、両親の姿を見ながら、育ってきたことと、自分自身もまた、子どもに接し、

“私の選んだ道”



伊 東 八重子
(食物栄養学科一期)

教えることに強い期待感を抱いたことが教師への通を選択させた理由でした。南区にある九学級の中学校をふりだしに教職二十九年目に入りました。

現在までに五つの中学校を経験しました。それぞれ異なった地区の、生徒数、校風などの違う学校ではありますが、子ども達の中学生らしい表情には変わりありません。

この生き生きとした若者達に囲まれ、支えられて今日の私があるのかなという気がいたします。

教壇に立った最初の学校は、今でも

そ七百数十名の生徒数ですが、その当時は、はっきりとは覚えていませんが、三百数十名だったように記憶しております。

学校規模は小さくとも、教師も生徒も全校が和気あいあいとしており、数十メートル離れたところからでも、後姿を見ただけで何年何組の誰々さんと解りました。

父母懇談会や家庭訪問も家庭的な雰囲気そのもので、話し合いもまことにスムーズにいったような気がいたします。

調理実習の教材、グループづくり等々放課後まで生徒と顔を寄せ合って相談したことなど、以後の教員生活を支える良い経験となりました。

その生徒達も、すでに中学生を持つ親となつています。教え子の子どもと出会うこともありました。

教員となつて何が良かったかと問われれば、やはり生徒の立派に成長した姿を見ることに尽きます。定年退職を迎えるまであと十一年、健康に気をつけながら生徒との触れ合いの一日一日を大切に頑張りたいとおもっております。

「私の歩んだ道筋」

- 札幌市立藻岩中学校
- 札幌市立中央中学校
- 札幌市立幌東中学校
- 札幌市立八条中学校
- 札幌市立月寒中学校

伊藤さんは、栄養短期大学で、教職の認定校になって第一号の中学校教諭です。現在も後輩の手本となる優秀な教師として活躍しております。
(斉藤)

佐々木理事長退任



現役時の佐々木前理事長

九年間の理事長としての職をこの三月で定年のため、退任なされました。八月三十日の幹事会の席上で、定年の為退任しました由、御挨拶がありました。永い間お疲れ様でした。

“私たちがんばってます！”



七夕まつりに担当しているクラスの園児と一緒に写したもので、やさしい先生ぶりがうかがえます。
(松木寛美さん 幼17回生)



七夕まつりに園児と短冊を飾っている様子です。真剣な顔をみて下さい。
(榎田真弥さん 幼14回生)

「特集」三学科長より

平成六年より母校もいよいよ校名変更という事に決定いたしました。「学校法人鶴岡学園北海道文教短期大学」といかにアカデミックに變更されます。この機会に私達同窓生もアウトロクのみならず、母校のインサイドを知りたいということで、三学科長に現在及び将来の展望を記してもらいました。(斉藤)



食物栄養学科長 藤本美與

食物栄養学科の現状

昨年四月より当短大に勤務いたしておりますが、一刻も早く学内事情に精通して教職員の皆様にご迷惑を掛けまいと夢中で過ごして参りました。

二年目の後半に入った今、漸く周囲が見え始め食物栄養学科としての今後の在り方を模索しているところでございます。校名変更を来春に控え、食物栄養学科に深い思いをお持ちの同窓生の皆様方に現況をお知らせし、今後なお一層のご理解とご助言をお願いしながら、共に本学の益々の発展と充実を目指して参りたいと思っております。

当学とのご縁は大変古く、昭和十九年四月に栄短一期生の橋本美佐子先生が北

海道庁の衛生に入られたのと時を同じくし、出身校は異なっていますが、私も同じ庁内の食糧課の栄養士として道民の栄養改善の仕事に就き、以来親しくさせて頂いておりました。その後五十年を経て丁度栄短の五十周年記念の年に教員としてお世話になることになり、そのご縁の深さを改めて感じているところでございます。

当学に参り感じたことは、永年の伝統を基盤とし、指導力のある意欲的な教員に恵まれた栄養士養成校として最多の学生数を擁する学科であるということ。開校当初から一貫した「道民の為の食生活改善を負う有為な人材の育成を」という

創設者鶴岡先生ご夫妻の強いご意志を継承しながら、時代のニーズを踏まえた教科への配慮、優秀な学生の確保、きめ細かい就職対策などに努力が重ねられ、結果、従来の食物栄養学科の他に別科(調理専修)と専攻科を含め学生数五百余名というマンモス学科となったのであります。

また単に学内に留まらず校外活動も積極的に行われており、全道各地からの講演、講習の依頼件数が増大していること、地域との連携による(特に地元恵庭市及び周辺)行政や関係各種団体との健康関連行事等も数多く実施して地域住民の期待に応えています。これらは、関係教職員のみでなく、自主的な学生参加の形が取られているのも本学科の特徴でありましょう。このことは、とかく個人行動の多い現代において、学生にとっては社会性を身につけチームワークの重要性を体得できる好機と考えております。

更に年に数回実施の各種料理コンクールに本学科生が多数応募し、たびたび入賞しているのも関係教科担当者の積極的な指導の現われといえましょう。

今、全国の各大学や短大では将来の志願者数の減少を見越して対策に苦慮しておりますが、本学科でも社会のニーズに対応できる新しい栄養士養成を目指しております。二年間の短期間では内容的に充分とはいえない多様化した専門科目の充実を図り現代の学生にとって魅力あるものにするにはコース制が必要との見解に

立ち、平成二年度より、①臨床栄養コース、②健康運動コース、③食品科学コース、④教員資格コースを設けております。また平成五年度からは従来の栄養士免許のほかに医療秘書士と医療事務管理士及び食品科学認定証書の資格取得が可能になるので、一層の充実が図られることになりましょう。しかし、本学科が今後更に発展する為には現在抱えている幾多の課題解決が求められています。

(1) 現在の校舎が学生数に対して手狭な事、また、より高度な設備の充実が必要になってきております。
(2) 本学科卒業生の、専門職としての完全就職を目指し、その為のネットワークの拡大が必要でございますがこの点につきましては特に同窓生の皆様方の直接間接のご助力をお願いしなければならぬと存じます。

(3) 卒業生の管理栄養士試験の合格率をアップする為の対策が必要であります。
(4) 広大な敷地や恵まれた自然環境(芝生、森林、小川、二つの沼、ミズバショウの群落等)を視点においた校舎周辺の環境整備も大切ではないでしょうか。
専門科目の多い技術系の短大では、ややもすると専門的知識や技能の習得に終始する傾向が見られますが、学生が、指導力、実践力と共に、この自然環境に日常接した中で、包容力や豊かな感性等、自然に培われるようにと考えております。

生活文化学科の

情況報告



生活文化学科長 浅川 修 二

一、はじめに

本学の現在の学科別学生数は次の表の通りであります。(平成五年八月)

学科別学生数				
学 科 名	1 年 (名)	2 年 (名)	計 (名)	構成 比(%)
食物栄養学科	229	221	450	41.1
生活文化学科	201	196	397	36.3
幼児教育学科	132	115	247	22.6
計	562	532	1,094	100

(注) 1. 平成 5 年 8 月現在
2. 食物栄養学科は本科在学学生

生活文化学科の卒業生は、企業を中心に官公庁、また、小・中学校の教員としても活躍しており、幼児教育学科の卒業

生は、幼稚園・保育園に教諭、保母として、夫々めざましい活躍をしています。「栄短」の実態は、いわば、準総合短大と言つてよい内容になっております。

「名は体を表わす」ということわざがありますが、今回、「栄短」の実態を表現する名称として、「北海道文教短期大学」という校名変更が学内の手続きを経て決定され、平成六年四月から正式に使用されることになったのは、本学がさらに飛躍・発展するために適切な処置であると思ひます。

しかし、昭和三八年に食物栄養学科、四一年に家政学科(六三年に生活文化学科へ変更)、四三年に幼児教育学科が夫夫設置され、三学科が長年にわたつて教育活動をしてきたことを考えると、もつと以前に校名変更は行われても良かったのではないかと思ひます。現代のように変化の激しい時代には、いかなる分野に

おいても社会ニーズを先取りし(先見性)実行する(決断・実行力)事が発展のために、最も大切なことではないでしょうか。

二、生活文化学科の現状

生活文化学科は、他学科と同様に質の向上と量の拡大を目指して来た結果、現在の学生は、二年生が志願者五一六名、入学者二〇六名、高校評定値三・六(昭和六三年二・八)、一年生が志願者五五五名、入学者二一五名、高校評定値三・六と、その成果が表われています(夫々平成四年四月、五年四月時点)。

特に、昭和六三年に従来の家政学科を生活文化学科と名称変更し、内容的にも衣・食・住に関する技術的学習と合わせて、その背景にある文化を理解させること、また、社会に出て役に立つコンピュータ、ビジネス教育を習得させ、更に、多様な学生の要望に対応できるコース制による特色ある学習カリキュラムを作成し、教養・専門・職業教育の三位一体化を推進して来た努力が前述の結果を持たせたと考えております。

卒業生の就職は、昨年の景気後退時には、九三%となつたが、それ以前は約一〇〇%と高率でありました。しかし、景気の低迷が続く本年度は、苦戦を余儀無くされており、学生にはねばり強く挑戦するよう指導してまいります。

三、これからの課題

本学の現状について記述して参りましたが、忘れてならないことは、短大の発

展のために関係者、特に同窓生のご理解とご協力をお願いしたいところです。その為には、出来る限り最新の学内情報や学校側からお知らせすること、また、同窓生の皆様からの卒直なご意見をお聞かせいただき、相互のコミュニケーションを図る事が肝要ではないかと考えております。

昨年から、同窓会報が発行されるようになったのは非常に喜ばしいことであり、また、組織的に支部が出来たことよつて今後の活動が期待されることでもあります。これらの組織・会報を始め、施設・会合・名簿・(短大の)公開講座への参加等により、直接、間接に相互のコミュニケーションを深めていくことが必要ではないでしょうか。

生活文化学科としては、教養・専門・職業の三位一体化教育を目標に、これからの社会ニーズである学生個々の個性を生かし、主体的に考え、行動できる人材の育成に努め、世間から、「入学させるなら文教短大へ」、「採用するなら文教短大の卒業生を」と言われるように、教育課程・方法の向上、施設・設備等の充実を図っていききたいと考えております。

(備考) 現在、コンピュータ教育で使用

しているマッキントッシュは、最高の機能を備え、他校より一歩進んだ最先端のコンピュータです。

幼児教育学科の

現状と課題



幼児教育学科長 藤井茂男

昭和四十三年に開設された本学科は、確実に発展を続け、二十五年の歳月を経て今や道内の保育者養成機関として確固たる地位を占めるに至りました。卒業生は約三千名に及び、それぞれ各地域、各職域において使命を果たされ、また活躍されている事は、誠に慶賀にたえません。

最近の社会の変革の中にあつて、わが幼児教育学科も、時代のニーズに応じてその教育の充実を図つてきておりますが、以下要点を申し述べ、同窓各位の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

一、法改正に伴う新たな学科体制

昭和六十三年教育職員免許法等の改正及び平成三年児童福祉法に基づく厚生大臣告示に伴い、本学科は、改めて幼稚園教諭養成大学及び保育養成機関として認

定を受け、加えて同年の学校教育法、短期大学設置基準の一部改正に伴うカリキュラム等の整備を行い、こゝに新しい時代に即応する幼児教育学科として出発いたしました。これによって、高い資質能力、すぐれた実践力、豊かな人間性を兼ね備えた専門職としての保育者の養成を本学科の目標とし、日々学生教育にあつております。

二、授業科目の体系的整備と内容の充実

幼稚園教諭免許状及び保育資格取得の為の専門科目は広範囲にわたつておりますが、これらを体系的、調和的に編成し、かつ科目内容の精選と相互の関連をはかりながら教育内容をはかつております。

幸い、志願者が逐年増加しているの、定員百名を超えた人員で一クラス四十名位とし三クラス編成し、少人数による学

平成五年度現役員

- 会長 吉田 独子
- 副会長 齊藤 道子
- 副会長 浅見 晴江
- 副会長 西野 英子
- 常任幹事 橋本美佐子
- 常任幹事 和田 独子
- 常任幹事 市田 信
- 常任幹事 長沢 愛子
- 常任幹事 出島 秀子
- 常任幹事 官北 潤
- 常任幹事 前田 和子
- 常任幹事 齊藤百合子
- 常任幹事 岡塚 美紀
- 常任幹事 吉田早希子
- 常任幹事 山形 郷美
- 常任幹事 鈴木 栄子
- 常任幹事 八嶋恵美子
- 会計監査 市村 英子
- 会計監査 三沢 菱子

平成五年事業計画

一、同窓会名簿の整理

- 二、平成四年度卒業生へ記念品贈呈
- 三、講演会、講習会の開催
- 四、その他・会報発行

同窓会事務局だより

度 予 算

支出の部

(単位：円)

科 目	金 額	備 考
基本金積立	4,000,000	定期預金
4年度総会及びのぶ会経費	440,000	122名×3,500円+消費税
卒業記念品費	535,000	535名×1,000円=535,000円
印刷費	1,100,000	幹事会・常任幹事会の案内印刷 総会の案内・ 会報印刷(4年度分・5年度分)
通信費	2,000,000	総会案内ハガキ・ 会報発送(4年度分・5年度分) 切手代・電話代・他郵送代
事務消耗品費	50,000	ボールペン他
会議費	500,000	幹事会・常任幹事会
交通費	300,000	幹事会・常任幹事会交通費
アルバイト料	500,000	名簿等の整理
名簿整理費	100,000	名簿等の整理
研修費	500,000	講演料
子備費	864,807	
計	10,889,807	

習を行っております。また本学科のメイ
ンとも言える「実習」については、「実
習研究」という科目が加わり(法改正)、
三つの実習に先立つ事前指導と研究を行
って実習の成果を一層高める措置を講じ
ました。さらに、保育職としても、より
豊かな教養と常識を備えた幅広い人間が
要請される事から、学内の授業に加えて、
学外見学実習を実施しております。近代
美術館、芸術の森、開拓記念館等の見学
や、劇団四季の観劇人形劇の実習見学、
太陽の園(道立総合福祉施設)の見学を
通して、文化、芸術、音楽、伝統芸術、
社会福祉等について、視野の拡大をはか
っております。また、毎年秋には、本学
科あげての「音楽フェスティバル」を、街
の中心部施設を会場として開催し、多く
の市民から好評を受けております。

三、教育研究機能の地域への開放
すでに三年目を迎えました。本学科
と附属幼稚園との協力のもとに、「子育
て相談研究センター」を設置し、若い母
親の子育ての援助活動を行って、大いに
喜ばれています。さらに、時代の進展と
ともに、保育理論、保育内容、保育技術
等に新たな知見が加わってきていること
から、本学卒業生を中心とする保育現場
に現に勤務する方々を対象に、「保育セ
ミナー(仮称)」を本学主催で実施する
予定であります。幼稚園や保育所等の先
生方よりフレッシュしていただきたいと
の、私どもの願いからです。

四、入学状況と就職状況

本学科への志願者は増加し、入試学力
も上昇してきております。就職について
も毎年専門職として百%の就職を達成し
ております。この傾向を更に維持向上を
図っていききたいものと考えております。

以上本学科における教育活動を要点的
に挙げましたが、新しい時代に的確に即
応しながらも、常に時代の先取りをし
ていく構えのもとに着実にその歩みを続け
ております。今春、学園の経営陣の交替
もありましたが、その事によって本学科
の経営や教育にはいささかの動揺もなく、
むしろ懸案事項の解決に徐々に向かって
おり、明年度からの校名変更を機に、更
に新生の意欲のもとに、本学科の振興充
実に全力を傾けて参りたいと考えており
ます。確かに少子家族の増に伴い、保育
者養成を目的とする本学科にとって、直
ちに対応を迫られる課題ではあります。
しかし私ども伝統を守り、更に発展させ
ていくことが責務と心得ております。

目下、今後の情勢を見極めながら、将
来計画等策定しておりますが、同窓各位
のご忌憚のないご意見をお寄せくださ
いますようお願い申し上げます。



平成 5 年

自 平成 4 年 9 月 1 日
至 平成 5 年 9 月 末日

基本金積立額	14,500,000円
利息	0円
計	14,500,000円

学園創立 50周年 式典お祝金	3,000,000円
-----------------------	------------

平成四年度の就職状況について

入試・就職主幹 高橋 稀 一

平成四年度卒業生の就職状況は、別表
のとおりであります。
平成三年十月に発生したバブル経済の
崩壊と円高による不況をともに受けた
にもかかわらず、三学科ともに就職決定
率九〇%を超える好成績をあげることが
できました。特に幼児教育学科の専門職
希望者の就職率は一〇〇%を達成いたし
ましたし、食物栄養学科で栄養士として

収入の部 (単位：円)

科 目	金 額	備 考
前年度繰越金	204,807	
会 費	10,680,000	4年度分 $533 \times 10,000 \text{円} = 5,330,000 \text{円}$ 5年度分 $535 \times 10,000 \text{円} = 5,350,000 \text{円}$
利息収入	5,000	普通預金利息
計	10,889,807	

就職した学生は、卒業生二二八人中一二
二人で、卒業生の約五〇%に及んでおり
ます。これは、全国平均約三〇%、全道
平均約三五%に比べまして、抜群の好成
績であると云えます。
この快挙の背後には、本学五〇年の輝
やかなしい伝統と、先輩の皆様方の斯界に
おける実績と努力が高く評価され、その
ことが後輩の就職に好影響を与え、好結

北海道栄養短期大学 平成4年度卒業生就職状況

就職内訳

平成5年4月1日現在

学 科	卒業生数	希望者数	決定者数	就 職 率
食物栄養学科	245	228	207	90.8%
生活文化学科	162	145	135	93.1%
幼児教育学科	102	96	92	95.8%
別 科	11	9	7	77.8%
専 攻 科	4	3	2	66.7%
合 計	524	481	443	92.1%

職種別就職状況

食物栄養学科			生活文化学科			幼児教育学科		
職 種	人数		職 種	人数		職 種	人数	
栄 養 士	122		一 般 事 務	85		専 門 職	幼 稚 園 教 諭	33
教 員	3		営 業	22			保 母	46
一 般 事 務	35		販 売	19			指 導 員	6
営 業・販 売	38		教 員	3		一 般 企 業		7
そ の 他	9		そ の 他	6		計		92
計	207		計	135				

※専門職は就職率100%

果をもたらししたものと、心から感謝しています。

生活文化学科の就職は、他の二学科に比べて極めて困難でありました。

景気の大巾な変動によって、求人状況が急激に悪化し、求人数が二〇%〜三〇%減少するなかで悪戦苦闘しましたが、幸にして九三%の就職率に漕ぎつけたことができました。

この様な結果は、学生の努力はもちろんのこと、先生方の御指導と関係者の皆さんの御協力によるものと考えております。

平成五年度の求人状況は昨年度よりも更に悪化し、完全な買手市場となっており苦戦を続けています。

採用人員が激減したことから、極端な精鋭主義となり、徹底した量から質への転換で採用試験の方法も厳しいものになっています。

一般常識、適性・作文が必須となり、これに合格した者のみが面接試験受験資格を得ることができ、更に企業に

格を得ることができ、更に企業に加を義務づける企業も出現しています。

このように極めて厳しい状況にありますが、平成五年度も三学科が揃って九〇%以上の就職率を確保したいと願っています。

先輩の皆様方の御協力と御支援を切望いたします。

平成五年度入試日程

学 科 等	出 願 期 間	試 験 日
推薦 食物栄養学科 生活文化学科 幼児教育学科 別 科	11月18日(木)~11月30日(火)	12月3日(金)
I 期 食物栄養学科 生活文化学科 幼児教育学科 別 科 (社 会 人)	1月11日(火)~1月26日(水)	2月2日(水)
II 期 食物栄養学科 生活文化学科 幼児教育学科 専 攻 科 別 科	2月10日(木)~2月25日(金)	3月4日(金)

※平成5年管理栄養士合格者数 道内 232人中33人同窓生

同窓会総会案内

来る十月十日(日)は同窓会総会です。札幌第一ホテル本館で午後四時開会されます。終了後演奏会が開催されます。



札幌のチェロ奏者 土田英順氏とピアノによるミニコンサートです。お誘い合わせの上御出席くださるようおまち申し上げます。

編集後記

- 第一回の編集会議で内容を決定してより、途中で校名変更ニュースが入ってきましたので、今回は急遽校名変更に関する記事を中心にいたしました。
- 尚紙面の都合上皆様方の原稿カットさせていただきましたこと深くお詫び申し上げます。
- 来春より校名も変わる事となり、会誌名も変更します。どなたか、よい名がありましたら、御一報ください。

発行所 北海道栄養短期大学同窓会

会長 吉田 勉 子
編集委員長 斉藤 道子